

第18計;中国人は何故執拗(しつよう)なまでの面子にこだわるのか?

一太公望の面子は“覆水不返 覆水盆に返らず”である一

中国人の”面子”は日本人の”面子”とは少し違うようです。

日本人が中国人に厳しい注意をすると女性であれば急に泣き出し、男性であれば極端な場合、自殺することもあるからであります。中国人には人前で注意をしないほうがよいのであります。つまり、中国におけるトラブルの多くは、”面子”が原因していることが多いのであります。

中国人にとって人前で”面子”を潰(つぶ)されることは、まさに死活問題となるからです。それは、人格否定になるからです。人前で相手に恥をかかせたり、人前で相手を馬鹿にすることは、「暴力を振るう以上の行為」であるということを日本人は認識する必要があるように思います。

見栄っ張りな中国人は、お金を使う場合、お金の使い方を周りの人にみせることにより、自己の経済力(これだけお金を稼いでいるということ)を誇示しているといわれます。このような行動も、”面子”(自分に甲斐性があることを示す。)の影響によるところが大きいのであります。また、中国では、宴会のルールが決まっており、招待者の”面

子”を立てなければならないという不文律が存在します。

言葉づかいに気をつけるという”面子”を重んじる人には、人前で恥を書かされた恨みは、一生忘れません。相手を侮辱するような言葉を使ってはいけない。特に、中国人は、”馬鹿”という言葉は決して使ってはならないのであります。

何故なら、“史記”に次のような話があります。

秦の 2 代皇帝・胡亥の時代に権力をふるった宦官・趙高が、あるとき皇帝に「これは鹿でございます」と言って鹿を献じた。皇帝は驚いて「これは馬ではないか?」と尋ねたが、群臣たちは趙高の権勢を恐れてみな皇帝に鹿を指して馬だと言った。(また「馬鹿者」はにほんでは「狼藉をはたらく者」の意に近い。)

更に秦より 800 年遡 (さかのぼる) と太公望呂尚にたどり着く太公望という別名は、一般的には渭水で釣りをしていたところを周の文王が「これぞわが太公 (祖父) が待ち望んでいた人物である」と言って召し抱えたという話に由来するとされる。この故事にちなみ、日本では釣り好きを「太公望」と呼ぶ。

太公望はあまりにも学問ばかりしていて、働いてお金をもうけるとか家業を盛り立てるということをしなかったので、妻に愛想をつかさされ、離縁されました。しかし太公望は年を取ってから、どんど

ん出世し、齊の国の領主にまでなると、元妻が復縁をせまってきました。太公望呂尚は、水の入った盆（椀状入れ物・鉢のこと）をもってこさせ、その水を庭先にこぼし、元妻にこの水を元の盆にもどすように言った。当然ながら、必死になって水をすくおうとしても泥しかすくうことができない。呂尚は言った。「お前が復縁したいといっても、いったんこぼれた水は二度と元には戻らないのだ」と。

この人の面子は潰せないということを理解し、中国人と絶対的な信頼関係を築き、相手も「この日本人の”面子”は潰せない」と思ってくれるようにするのが大切であります。このような関係を築けると、相手側は、信じられないくらい協力的になってくれます。

私は、目先の利益にとらわれずに時間をかけて、このような信頼関係を作っていくという姿勢が大切であると確信しております。

日本人の”面子”は一般に「プライド」とか「自尊心」を指します。また 17 計の「中国人は何故紹介者を飛び越えてすぐ取引しようとするのか？中国人は何故一言、紹介者の許可乃至（ないし）私の同行を頼まないのか？」で論じたように「筋を通さないのか？」の意味には、「私が同行すれば 90%以上成功するが、同行しなければ 10%しか成功の確率がないのが何故解らないのか」が彼らに通じないこ

と、それが私には不思議でならないのであります。私は頼まれないことに絶対協力いたしません。何故なら日本民法の規定に“事務管理”の規定があるからであります。一般の人が考える意味ではないところの“善意のお節介”であります。例えば、台風の日隣人が留守で屋根が壊（こわ）れているとします。屋根屋に頼んで修理してあげた時、請求書は誰に来るのか？という意味です。人命救助とは違います。人命救助は警察から表彰されるが、“善意のお節介”は警察から表彰されません。頼んだ人が自己の責任で修理の費用を支払うというような規定があるからであります。

礼儀作法のない人を知人に紹介した時、紹介した人の面子を潰したということです。また、紹介者の立場を傷つけたという意味です。つまり当事者の自己中心的行動の為、逆に善意の紹介者が謝らなければならない事態が発生したということでもあります。

2010/10/17